

時空間情報を用いた京都における「お地蔵さん」・地蔵盆の分析

近藤無滴^{†1} 星野純子^{†1} 村上紀夫^{†2}
福島幸宏^{†3} 師茂樹^{†4} 後藤真^{†4}

本報告では、時空間情報技術を用い地蔵盆と「お地蔵さん」の現状と変化の分析をおこなうためのデータ作成と整理について述べた。過去の研究によると、関西では一般的な行事である地蔵盆が近年の高齢化・少子化により変化し、簡略化あるいは行われない地域が増加しているとされている。また、地域では「お地蔵さん」の維持管理ができなくなり、寺院へ預ける地域が増え、路地に点在する「お地蔵さん」の数が減少しているとされている。そこで、本報告では京都を対象として、フィールドワークを行い、GPS カメラ等を用いてデータの収集を行った。そのデータに時空間情報技術を活用して、「お地蔵さん」と地蔵盆の現状を記録、変化・傾向を様々な面から分析し、先行研究の妥当性について検証した。これにより、「お地蔵さん」・地蔵盆の研究において、時空間情報の活用が有効である実践例を示すと同時に地域のお地蔵さんのデータのアーカイブを行った。

Analysis of "Ojizosan" and "Jizobon" in Kyoto using the spatiotemporal data technology.

MUTEKI KONDO^{†1} JUNKO HOSHINO^{†1} NORIO MURAKAMI^{†2}
YUKIHIRO FUKUSHIMA^{†3} SHIGEKI MORO^{†4} MAKOTO GOTO^{†4}

In this paper, using the spatiotemporal data technology, we would like to analyze the changing of "Ojizosan" and "Jizobon." According to the previous studies, although "Jizobon" is a common event in Kansai Area, the events are decreasing in number, or being simplified due to declining birthrate and aging population. Moreover, in many regions "Ojizosans" are entrusted to the temples, because the residents can no longer maintain them. Therefore, the number of "Ojizosans" on the roadsides is decreasing. We are collecting the data through fieldwork in Kyoto using GPS cameras in order to record the current status of "Jizobon" and "Ojizosan," analyze their change using the spatial and temporal information technology, and verify the validity of the previous studies. In this paper, we demonstrate that the spatial and temporal information technology is useful for the analysis of "Ojizosan" and "Jizobon," and an example of the digital archive of the regional "Ojizosan."

1. はじめに

本報告では、時空間情報技術を用い、「お地蔵さん」[a]と地蔵盆の現状と変化を分析するためのデータ作成と整理・公開の手法について述べる。地蔵盆とは、町を中心とする地域の人々が集まり、「お地蔵さん」をお祀りする法会であり、「お地蔵さん」の周囲に提灯や花を飾り、供物を供え、供養するまつりである。特に、関西地方で児童を中心とするかたちのお祭りとして伝承されてきた。祀られる「お地蔵さん」の所在は公共の場所、個人宅と様々である。また、個人所有の「お地蔵さん」も存在する。だが、京都では、明治初年の廃仏毀釈を受け、明治4年に地蔵盆禁止令が出され、路地の「お地蔵さん」が、一度撤去されたとされている。現在、路地や各家庭に存在する「お地蔵さん」は、撤去後、どのような経緯で現在の場所に再配置されたか、撤去自体がどこまで徹底されたかは不明である。

また、「お地蔵さん」の維持管理は、地域住民によるものである。土木工事、家の立替工事により、場所を移す例もあるが、それだけではなく撤去される「お地蔵さん」が増えており、全体の数としては減少の傾向にある。そのため、地蔵盆を廃止してしまう地域も存在する。したがって、「お地蔵さん」および地蔵盆の現状記録と分析は喫緊の課題である。

過去の調査は、学区ごとなど、特定の地域に絞って行われている[1]。結果、現状の把握、分析はその地域に限定される。また、隣り合う町のように、地域が近ければ、似通った分析結果になってしまい、過去の研究でも、他の地区での調査が課題であると述べている[2]。つまり、多くの地域を調査対象とし、比較することで、地域ごとの傾向が、色濃く表れることが期待できる。また、京都市という、大きなまとまりの傾向をみることも期待できる。筆者らはフィールドワークによる聞き取りとGPSを利用して調査を行い、その成果を時空間情報として用いるための準備を行った。

^{†1} 花園大学大学院文学研究科

^{†2} 奈良大学

^{†3} 京都府立総合資料館

^{†4} 花園大学

a 「お地蔵さん」と呼称されるものには、地蔵菩薩だけではなく、大日如来や、薬師如来なども含まれている。一方で通常の仏像とは異なる扱われ方をされている点もあり、仏像や地蔵菩薩という用語では説明できないものであるため、地域の呼称である「お地蔵さん」という表記に統一する。



図 1 調査風景

2. 調査

2.1 調査方法

調査には、住宅地図と、共通の「調査シート」を使用し、2、3人で1班となり複数の班で行った(図1)。調査シートに記載した内容は以下の通りである。

- 調査者名
- 区・町名
- 調査日
- 町内の「お地蔵さん」有無
- 「お地蔵さん」を移動させたか
- 「お地蔵さん」に関する言い伝え、言われ
- 「お地蔵さん」以外に祀っている尊格
- 地蔵盆について
- 「お地蔵さん」の維持管理
- 調査対象者について
- 「お地蔵さん」の位置の略地図
- その他

聞き取りを行い、「お地蔵さん」の位置を確認、あるいは、路地を歩き「お地蔵さん」を発見した際は、GPS付きデジタルカメラを用い、「お地蔵さん」を撮影した。また、記載されている文字、「お地蔵さん」の向き、化粧の有無、祠の有無についても記録を行った。ただし、山科区の調査については、「ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会」よりいただいたデータを用いており、著者らの直接的な調査によるものではない。そのため位置情報、祠の有無など、調査した地域よりも情報量が少ない。調査日・調査地域は以下の通りである。

- 平成24年度：御池通から五条通・河原町通から堀川通
- 平成25年度：五条以南・堀川通以西・河原町通以东・東山区三条通以南・JR東海道線線路以北・鴨川以东

2.2 フィールドワークによる調査結果

(1) 「お地蔵さん」の分布

約640町を調査し、約580箇所「お地蔵さん」を発見した。ただし、1つの町で複数箇所「お地蔵さん」が存在する場合も多くあった。そのため、「お地蔵さん」が存在する町数は、約400町となる。約62%の確率で1つの町に「お地蔵さん」があることになった。ただし、これは聞き取りの有無に関係なく計算した場合である。聞き取りを行うことの出来た町数は、約220町であり、この中で「お地蔵さん」の存在した町数は、約165町であった。割合でみると、約77%の割合になった。つまり、聞き取りを行えなかった地域でも、聞き取りを行うことで「お地蔵さん」が増える可能性がある。

この理由は、たとえ路地に「お地蔵さん」がなくとも、個人宅で「お地蔵さん」を維持管理している町が存在するためである[b]。また、町内に寺院が存在すれば、その寺院で「お地蔵さん」を祀っている場合があった。また、路地に「お地蔵さん」が存在しない町での聞き取りでは、「維持管理が出来なくなった」という理由で、町内外の寺院へ預けるようになった場合もあった。62%、77%という高い割合ではあるが、以前にはさらに多い数の「お地蔵さん」が町内の路地に存在したことがうかがえた。

(2) 地蔵盆

地蔵盆の有無に関する第一段階の調査として、地蔵盆を行っている地域は約180箇所。地蔵盆を行っていない地域は約40箇所と判明した。これは、聞き取り調査を行ったうえで地蔵盆の有無が判明した地域である。今回、聞き取り調査が行えず、地蔵盆の有無が不明な地域もあるが、より多くの地域が地蔵盆を行っていると予想される。さらに、町によっては、組が複数に分かれており、1つの町で地蔵盆が複数の箇所で行われている場合も存在した[c][3]。聞き取りを行った結果、数年前から子供の数が増えたため、元々、複数の組に分かれて行う形態に戻したという。だが、子供の人数を訪ねたところ「1つの組に10人程度」であり、少人数でのお祭りをを行う地域が多いようである。ただし、右京区の太秦東市川では500名近い子供を対象として地蔵盆を行っているなど、大規模な例も存在する。また、町内に「お地蔵さん」は無いが、地蔵盆を行っている地域も存在した。それらの地域は、掛け軸を祀っており、多くの場合、個人宅で維持管理を行っている。他に、町外の寺院から借りて行う場合や、隣の町と合同で行う場合もあり、これらも過去の研究で報告されている[d][4]。

地蔵盆が簡略化されている現状は、地蔵盆を行う日程の変化にもよく表れていた。多くの地域での聞き取りで「以前は2日間行っていたが、現在は1日だけ行っている。」という結果が得られた[e]。また、「本来は8月の23日、24日

b) 過去の調査でも、地蔵盆当日のみ「お地蔵さん」が見られる状態になる場合が報告されている。

c) 1978年に行われた調査でも、組単位で行われているという報告がある。

d) 1982年に行われた調査でも、合同で行う町が報告されている。

e) 2008年に行われた調査では、1968年では約72%の地域が地蔵盆を二日

C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
町名	お地蔵さん	お地蔵さんの数	緯度	経度	Q1	Q2	Q3	Q4	地蔵盆の日	地蔵盆の日	地蔵盆の日	Q6	その他
東片町	無	0							有	8月19日	Word(2012年01月01日)	詳細	毎朝線香
梶屋町	有	1	35.007835	135.764043	祠あり				不明				双葉屋の近
丸屋町	有	1	35.007832	135.762751					不明				部分的にこ
大黒町	有	1	35.007417	135.764902					無				子供がいないため、約
下白山町	無	0	35.008957	135.765738		20から30年前は浄泉寺			有				矢田寺で行う
木之下町	有	4	35.008860	135.762885					不明				中に4体確
菊屋町	無	0			矢田寺に	50年前は大中央ビル付近			有				矢田寺で行う
亀甲屋町	不明								不明				「姉小路界
丸木材木町	不明								不明				
柳八幡町	不明								不明				
松下町	不明								不明				
大阪材木町	不明								不明				
油屋町	不明								不明				
福長町	不明								不明				
道祐町	不明								不明				
朝倉町	不明								不明				
白壁町	不明								不明				
堀之上町	不明								不明				
天性寺前町	有	1	35.008860	135.767237					不明				
桜之町	有	2	35.007206	135.767785	誓願寺と大善寺の境内	1つは祠なし			有				それぞれの境内で行う
大文字町	有	1	35.010369	135.767785					不明				
石屋町	有	1	35.008652	135.770582	瑞宝寺にあり。400年前、公開処刑大日如来				不明				引導地藏尊
材木町	有	1	35.008014	135.770635					不明				
山崎町	有	4	35.007560	135.770000					不明				

図 2 データ入力結果例

に行うが、現在は、その前後の土曜日あるいは、日曜日に行っている。」という結果も得られた。これは、休日を地蔵盆の日程にすることで、参加人数を増やすためである。

共通の調査シートを用い、調査項目を決めて調査を行ったが、複数の班に分かれた結果、記入内容にバラつきが生まれてしまった。調査方法に関する課題は後述するが、調査によって得られたバラつきのあるデータを整理し、統一されたデータにする必要がある。

3. データの整理と分布図の作成

3.1 データの整理

データの入力に際して、調査シートの項目を細分化、あるいは項目を追加した。細分化、追加した項目は以下の通りである。

- 「お地蔵さん」の有無：調査が行えず、「お地蔵さん」の有無が不明な場合、「不明」とした。寺院に「お地蔵さん」を預けているケースでは、その寺院が町内にある場合は「有」とし、その寺院が町外であれば、町内に「お地蔵さん」がないと判断し、「無」とした。また、1つの町で複数の箇所に「お地蔵さん」がある場合、位置情報が異なるため、データを分けた。
- 「お地蔵さん」の数
- 「お地蔵さん」について：化粧の有無や文字情報、「お地蔵さん」の向きに関しては、記入していない班もあり、集計がしにくい判断したため、「お地蔵さんについて」にまとめた。
- 緯度・経度：町内に「お地蔵さん」がある場合、調査シートに記入した略地図をもとに、ウェブサイト『国土地理院』の地理院地図^{f)}で緯度経度情報を調べ、入力を行った。
- 地蔵盆の有無：前述した「お地蔵さんの有無」同様に、調査が行えなかった場合、「不明」とした。

間行っていたが、調査時は約43%であった。

f) <http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/>

- 地蔵盆の日程
- 地蔵盆の詳細

3.2 分布図および・データの公開

データの利用可能性を確認するため、分布図を作成することとした。分布図を作成することで、概要を可視化され、現状を把握することがより容易にできる(図3)。まずは、「お地蔵さん」の数に注目し、それらを色分けして表示させることで、地域の傾向をおおまかに読み込むことが可能となる。また、どの地域に少ないのかが一目でわかる。実験的な分布図の作成には Google Fusion Tables を用いた。

また、作成したデータをオープンな形を公開することにより、長期的な記録を行うことができる。調査によって得られたデータは、調査時のものである。しかし、前述の通り、これらの情報は永久に変わらない物ではなく、さまざまな事情で移動・消失する。そのため、「お地蔵さん」を移す、地蔵盆を行わなくなるといった変化が生じれば、データを再編集もしくは追加する必要がある、定期的、長期的な記録が必要である。これらの作業は、著者らだけで行うのは限界があり、かつ間違い等の可能性も否定できない。

そこで、基礎データを公開し、オープンな状態にすることにより、データの再配布、再編集を誰でも行うことができるようにした。端的にはクリエイティブ・コモンズライセンス 4.0 国際の表示 (CC BY 4.0) に準ずるようにしている。ただし、データそのものへのクリエイティブ・コモンズライセンスには議論があるため、現時点では、直接的な「ライセンスの採用」を明記しているわけではない。また、オープンストリートマップ (OSM) への利用も可能とするために、Open Database License(ODbL)のデュアルライセンス採用も検討している。これにより最新の情報を与えることができ、長期的な記録へとつなげることができる。また、誰でもデータを加えることができれば、広範囲での調査、比較、研究へとつながる。今回のような広範囲での調査、データ収集が必要な場合、データをオープンな形で

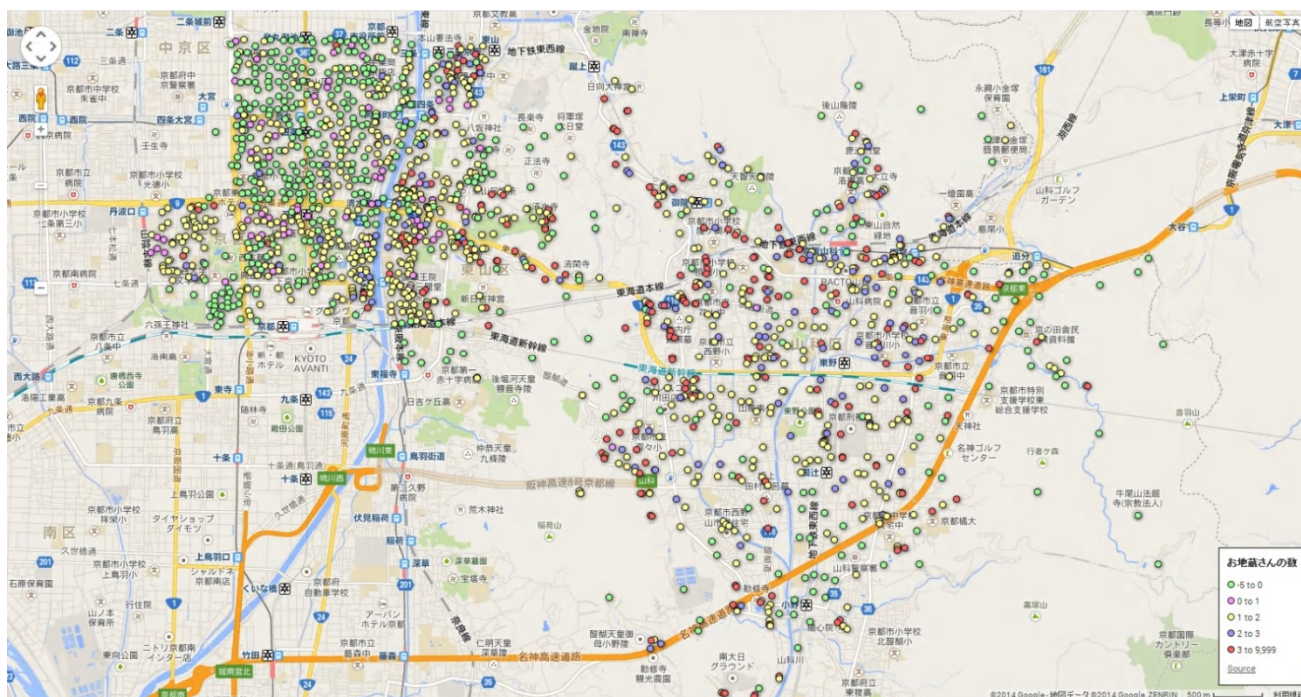


図 3 分布図作成の結果

公開することは、研究の促進になる。

3.3 世帯数・人口のデータ追加

「お地蔵さん」・地蔵盆の撤去、簡略化あるいは廃止の傾向が少子高齢化に影響しているとされていることは、前述した。そのため、京都市統計ポータル統計情報の総合窓口 [g] を利用し、町ごとに世帯数・人口のデータを与えた。さらに、旧学区ごとに年齢層のデータを与え、少子高齢化の影響がどのようにあられるか実験的に考察を行った。

3.4 データの利用例

(1) 分布図の概観

マッピングを行った結果、中京区では、1 つのお堂について、「お地蔵さん」が 1 箇所のみである地域が多数を占める。だが、東山区、山科区では、1 箇所に複数体の「お地蔵さん」が分布している割合が高い (図 4) (図 5)。この要因として 2 点考えられる。1 点目は、市街地には「お地蔵さん」の数が少なく、郊外では数が増える。つまり、周辺環境の変化によるものである点。2 点目は、世帯数・人口が「お地蔵さん」の数に影響している点である。1 点目に関しては、「お地蔵さん」の位置情報、世帯数・人口のデータとは異なるデータを追加する必要がある。2 点目に関しては、後述する。どちらの可能性もより広範囲での調査、記録、マッピングが必要である。

(2) 世帯数・人口のデータとの関連

世帯数・人口のデータを与え、町内に「お地蔵さん」が存在する町と、存在しない町と比較を行った結果、多少ではあるが、差が生じた。まず、町内に「お地蔵さん」が存在する町での平均世帯数は約 65 世帯 (約 117 人) であり、

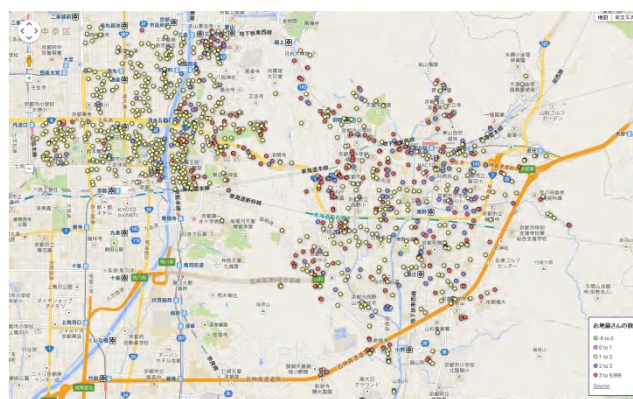


図 4 「お地蔵さん」の有のみ表示

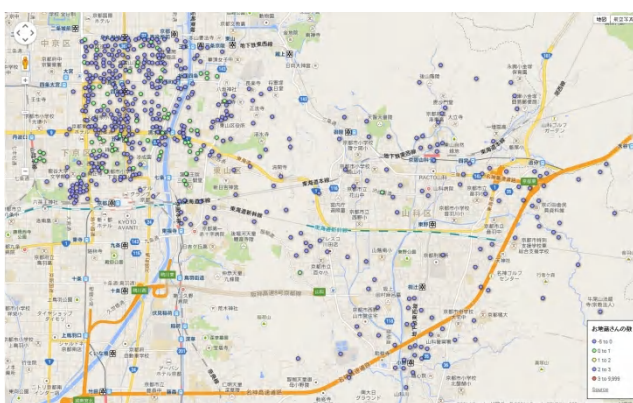


図 5 「お地蔵さん」のない町

「お地蔵さん」が存在しない町での平均世帯数は、約 47 世帯 (約 87 人) であった。世帯数・人口が多い町であれば、「お地蔵さん」が存在する可能性が大きいということである。ただし、中京区に関しては、「お地蔵さん」の存在する町の平均世帯数が、約 49 世帯 (約 99 人)。存在しない町で

g) <http://www.city.kyoto.jp/sogo/toukei/Population/index.html>

は、約 50 世帯（約 96 人）であり、世帯数、人口が多い町であれば、「お地藏さん」が存在するとは言えない。これは、もともと中京区には「お地藏さん」の数が少ないということが関連する。「お地藏さん」のある割合を中京区に限定すると、約 44%である。「お地藏さん」が路地から撤去される原因は、維持管理の問題もあるが、この結果から考えれば、世帯数・人口ではなく都市化による建て替えや道路の拡張などが原因ではないだろうか。

次に、世帯数と人口を地藏盆のデータと照らし合わせた結果であるが、「お地藏さん」の有無と違い、地藏盆を行っている町と、行っていない町での差は表れなかった。まず、地藏盆を行っている町の平均世帯数は、約 193 世帯（約 348 人）であり、行っていない町では、約 203 世帯（約 295 人）である。人口でみれば、人口が多い町ほど、地藏盆を行っている割合が高いように思える。だが、世帯数は、地藏盆を行っていない町のほうが多い。区を限定して見た場合、東山区だけは行っている町の世帯数平均が、約 69 世帯（約 124 人）。行っていない町では、約 53 世帯（約 71 人）であり、東山区に限ってみれば、世帯数・人口の減少と、地藏盆の開催を行わなくなる状況が関連していると言える。

また、すべての町において、世帯数・人口が多いことが地藏盆の有無と関連しないと言える点がもう一つ存在する。地藏盆を行っている町のうち、最も世帯数・人口が少ない町は、3 世帯（5 人）。行っていない町のうち、最も世帯数・人口が多い町は、183 世帯（303 人）である。ここからも、世帯数・人口が多いということと、地藏盆の有無は単純な一致をしないことだけは読み取れる。

少子高齢化の影響が表れると予想した、学区ごとの年齢別人口との比較に関しては、予想と反する結果となった。まず、地藏盆を行っている地域での子どもの 1 町あたりの割合は約 9%。行っていない町では、約 10%であった。さらに、高齢者での割合は、行っている町では、約 25%。行っていない町では、約 27%であった。人口でみると、さらに明瞭である。行っている地域では、1 町あたりにおける子どもの平均人数が約 296 人。高齢者が約 747 人であった。行っていない町では、子どもが約 533 人。高齢者が約 1303 人である。「子どもが少なくなってきたため地藏盆を行わなくなった」という聞き取りの調査結果とは、相反する結果となった。ただし、「高齢者ばかりになり、地藏盆を行わなくなった」という結果とは、関連が見受けられる。

学区ごとの年齢別人口を割合でみると、確かに、どの学区も子どもの比率が少ないため、少子化の影響をみることができる。だが、どの学区も数値に差が無く、子どもが少ない町は地藏盆を行っていないと断言できないのである。

4. 課題

4.1 調査に関する課題

(1) 調査内容の不統一

今回の調査では、調査項目があいまいであったため結果的に統一性のない部分が存在した。「お地藏さん」の向いている方角を一箇所一箇所記入している班もあれば、装飾に関して事細かに記入している班もあった。「地藏盆の日だけ、お地藏さんを移動させ東に向きを変える」という地域が存在するように、「お地藏さん」の向きというのは、何らかの意味があると考えるのが妥当である。すべての「お地藏さん」の方向をデータ化することが出来れば、新たな結果を得ることが出来るだろう。装飾に関しても同様である。だが、これらの調査項目は、必須としてあげられているものではなかったため、全ての班がこれらを記入したわけではない。また、地藏盆で掛け軸を祀っている地域が少数ではあるが存在したことに対しては、それらを「お地藏さん」



図 6 大日如来の例



図 7 大日如来の例

として扱うのかどうか、調査前に確認をしていなかった。これにより、「お地藏さん」の定義・理解についてそもそも不足していたことが改めて判明した。これらの統一的なデータを作成することで「お地藏さん」とはどのようなものなのかを改めて確認する必要が生じたことがわかる。データをオープンにするメリットとしては、これらの不足したデータを、第三者が追加して記録し、共有することを可能にしている点がある。しかし、「お地藏さん」とはどのよう

なものなのか、という点で、京都の内外の人々の意識の差があった場合において、オープンなデータの入力がある種の混乱を招く可能性を持っているのではないかと考える。むしろ、多数の人々のデータ入力、いわゆる「お地藏さん」のありかたを可視化する可能性も否定できない。

(2) 聞き取り

聞き取りを行えず、地藏盆の有無を把握できなかった地域がいくつかある。そして、前述したように、路地に「お地藏さん」がなくとも、地藏盆を行っている地域はある。同様に、「お地藏さんは祀っているが、地藏盆は行っていない」という聞き取りの結果が多くあったことからわかるとおり、「お地藏さん」の数を把握する以上に、地藏盆の有無は、聞き取りに頼る他ない。今回行った調査で重点に置き、最優先にしたのは聞き取りではなく、路地を実際に歩き、「お地藏さん」を発見することであった。

また、聞き取り調査が出来るか否かは、天候や時間に左右される。東山区の調査で聞き取りを行うことのできた箇所が少ないのは、降雪のためであった。「お地藏さん」の維持管理、地藏盆の運営管理は町内会長が担当している場合が多いので、より異なった方法で確認を行う必要もあるであろう。これらの点も、データをオープンにすることで、地域の人々による協力を導き出せる可能性を持っている。

(3) 資料による調査

過去の調査報告では、祠の位置情報を得るために、さまざまな資料を用いているケースもある[h][5]。詳細な地図であれば、地図記号で路傍祠が記載されているものもある。だが、当然ながら地藏菩薩の祠のみを網羅的に記載した地図、資料は存在しないため、この情報は補助的にしか用いることができない。だが、資料と、調査時の祠の位置を比較することで、「お地藏さん」を移動、あるいは撤去させたという予測を行うことも可能であろう。また、調査時に「お地藏さん」の位置を予測することができ、調査に役立てることも可能である。

(4) さまざまな尊格

地藏菩薩以外に、大日如来を祀っている場合も多々あった(図6)(図7)。本来、地藏盆とは別に、大日盆というものが存在し、それぞれ別の日に行われる。だが、地藏盆の簡略化と同様に、大日盆も簡略化、あるいは、地藏盆と合同、もしくは混同されている。また、大日如来を地藏菩薩と同じ祠で祀っていたり、一体で二つの尊格を持つ場合もあった。また、地藏菩薩か、大日如来か判別がつかなくなっている場合もあった。何を祀っているかではなく、そこにあるものは「お地藏さん」であり「地藏盆」であるという意識を持つ場合が多いようである。ただし、あくまでも大日如来として祀っている例もある。調査で得られた「お地藏さん以外に祀っている尊格について」の結果から、他

の尊格を祀っている地域をデータ化し、比較することで、新たな分析が可能となると考えられる。

4.2 世帯数・人口のデータについての課題

世帯数・人口のデータを活かすには、過去あるいは今後の「お地藏さん」と地藏盆に関する長期的な記録が必要である。今回、世帯数・人口の少ない地域でも、地藏盆が行われ、世帯数・人口が多いとしても地藏盆を行わない町が存在することが判明した。そのため、少子高齢化と地藏盆の開催箇所数との関連をはっきりと見るができなかった。関連をみるためには、長期的な地藏盆の開催箇所の記録が必要である。それにより、少子高齢化と、地藏盆の開催箇所の増減の関連をみるができるのではないだろうか。つまり、「お地藏さん」・地藏盆を研究、分析するためにも、長期的な記録は必要であり、その点においてもオープンデータ化は欠かせないのである。

4.3 「お地藏さん」・地藏盆を分析、研究するための課題

「お地藏さん」・地藏盆ともに、効果的な分類ができず、データ処理に困難を生じさせているという問題がある。過去の調査を参考にすれば、形態、装飾、規模などで分類を行っている。

(1) 「お地藏さん」の分類

たとえば、祠や「お地藏さん」が存在しているのが、道路や公園などの公的空間なのか、私有地のように私的空間なのかで分類する方法がある。どこに「お地藏さん」が存在しているかというのは、前述した町内での「お地藏さん」の管理方法につながる。過去の研究報告では、祠を屋根の形、制作年代、素材、所有者などで分類している[6]。だが、分布状況の報告のみに留まっており、地理的・時間的な状況との関連には言及しておらず今後、データ化して処理すべき課題である。

(2) 地藏盆の分類

装飾や規模の縮小は、「お地藏さん」・地藏盆の撤去、廃止に先だって、人口・世帯数の減少との関連があらわれる可能性がある。地藏盆の形式化、簡略化が過去の研究でも、今回の調査でも見受けられた。だが、今回の調査では、町内ごとの地藏盆の内容について、聞き取りによる情報があまり得られなかった。具体的にどのような内容で行われているのか、参加者の数などで分類することも課題である。さらに、「お地藏さん」の位置だけではなく、地藏盆が行われている場所も過去の研究では比較の対象となっている[1][7][8]。これらは、町とは異なる単位、グループで考える必要がある。町あるいは組ごとに、地藏盆の取り決めがある。地藏盆の日程を1日に変更する、地藏盆に参加する年齢層を広めるといった変化は、地藏盆を続けるために、形式を柔軟に変化させた結果である。だが、路地に多数の「お地藏さん」があり、いたるところで数日間、地藏盆が行われていたというデータをアーカイブすることが、今後の地藏盆のあり方の研究へと進めうる重要な一歩となる。

h) 過去の調査では、調査前に祠の位置を「京都市市街図(1/2500)平成16年修正版」を元にデータ化している例もある。

5. 展望

5.1 時間的な把握

(1) 「お地蔵さん」の位置の変化

現状の記録、及び今後の長期的な記録に関してこれまで述べてきた。次に、過去の記録をデータ化し、変化を可視化できるようにする必要性について述べる。過去に行われた調査、過去の研究報告を参考にし、緯度経度・時間情報を付与するなどの整理を行うことで、その変化を GIS により可視化できる。ただし、調査方法の違いについては注意すべきであり、データの統一を行うには、どのような形式で調査が行われたのか、調査の重点、つまり調査の優先順位を把握する必要がある。

また、いつから祠、「お地蔵さん」があるのか調べる手がかりになるものの一つに周辺の文字情報がある (図 8)。文字情報の中でも以下の情報は時間情報を得るためには有益である。

- 年月日
- 氏名
- 町名 (組名)



図 8 関連する文字情報。

もし年紀に関する文字情報が祠にあれば、その祠が建てられた年月日であると仮定できる。また、その日付に「お地蔵さん」を移転させた蓋然性も高い。それ以前の位置情報を得るための材料ともなり得るであろう。

また、前述した祠の位置を記載している地図を使用することで、過去の位置を把握、推測することができる。また、寺院に預けている場合には、いつから預けているかの記録などを活用する手もあると思われる。

(2) 地蔵盆に関する記録

地蔵盆に関する情報を得る第一段階が聞き取りであると述べた。だが、聞き取りは多くの場合、調査を行ったその年の地蔵盆であっても、地蔵盆が行われた日にちを正確に思い出せず、多くの場合「8月の末頃」のような聞き取り結果となる。そのため、過去の地蔵盆に関するデータを収

集する為には、記録とつきあわせる必要もある。「お地蔵さん」の管理を町内会長が行っている場合が多いと前述したが、同様に地蔵盆の運営管理も町内会長が行っている場合が多かった。これらの町内会長が持っている関係資料を閲覧することができれば、より精度の高いデータの作成が期待できる。これらの情報の収集にも一研究グループでは限界があるため、オープンデータの活用が期待される。

5.2 マッピングに関して

(1) 位置情報

緯度経度情報を与えることで、分布図を作成し、「お地蔵さん」の分布状況を一目で見ることができるようにした。さらに、コンピュータ上で処理することで、手書きによる地図の作成と比べ、再編集・再配布を行うことが容易となった。だが、コンピュータ上での「お地蔵さん」のマッピングだけであれば、目新しいことはなく、過去の研究でも行われている。世帯数・人口のデータだけではなく、他のデータを、「お地蔵さん」の位置情報と同時に地図作成を行うことで、新たな発見も期待できる。たとえば、個人宅で「お地蔵さん」を管理し、地蔵盆の日のみ、路地や公園などの公的空間でまつケースがあることを述べた。地蔵盆の日のみ、「お地蔵さん」を移動させる事例は、過去の研究でも報告されており、マッピングも行われている。

また、今回の調査では、「お地蔵さん」を現在の場所とは違う場所で祀っていたかどうか聞き取りを行った。元々の場所、現在の場所をマッピングすることが出来れば、「お地蔵さん」を移動させるようになる要因、傾向の分析が期待できる。

(2) 周辺環境の変化

移動させた要因が土木工事・建て替え工事であれば、過去の地図と現在の地図を照らし合わせることで、「お地蔵さん」を祀っている場所周辺の変化を同時に分析することが期待できる。同様に、人口・世帯数の変化をマッピングに示すことができれば、町内の環境が変化することで、「お地蔵さん」を移動させることにつながるかどうか、傾向をみるのが期待できる。周囲の環境という点では、マンションや一戸建てなどの住宅形態も影響する可能性がある。世帯数・人口が必ずしも、地蔵盆の有無に関係しない理由が、住宅形態にあらわれることが期待できる。さらに、地蔵盆の参加人数をデータ化することが出来れば、関連性が強くあらわれることが期待できる。

6. おわりに

今後、地蔵盆を行っている地域の数、「お地蔵さん」の位置、数は必ず変化する。それらの情報を調査し、データ化、分布図を作成し、分析を試みに行う中で、いくつかの課題と展望が浮かび上がった。本稿での主題は特に「お地蔵さん」のデータをいかに作成し、どのように記録・共有する

ことが最も効果的かについて、集中的に検証を行った。今後は、このデータを用いた分析を行い、これらのデータの有用性を示し、さらに「お地藏さん」の文化的な状況に迫る検討を行っていきたい。

参考文献

- 1) 片岡勇人, 高田光雄, 他: 有隣学区における各町内の地藏盆の運営状況: 京都市都心部における地藏盆の役割に関する研究 その1, 学術講演梗概集, pp.443-444, (2011)
- 2) 後藤康久, 竹内泰, 他: 京都都心部における地藏の日常的な分布と祭礼時の分布に関する考察: 京都の都市空間と地藏 その1, 学術講演梗概集, pp.721-722, (2010)
- 3) 野口美智子, 高橋一雄: 京都における地藏盆の開催単位近隣空間の研究 (2), 学術講演梗概集, pp.1161-1162, (1979)
- 4) 野口美智子, 近隣空間の研究(7): 京都<桃菌>学区における地藏盆の開催単位及び演出空間の実態, 学術講演梗概集, pp. 151-152, (1986)
- 5) 井上学, 中谷友樹, 他: 文化財フィールド調査におけるモバイル GIS (POS システム) の有用性, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, pp.95-100, (2007)
- 6) 浜田ひとみ, 谷口興紀, 他: 大東市地域における路傍祠について: 北河内地域の生活環境デザイン要素に関する調査研究, 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系 (34), pp.809-812, (1994)
- 7) 後藤康久, 竹内泰, 他: 京都都心部における地藏の日常的な分布と祭礼時の分布に関する考察: 京都の都市空間と地藏 その3, 学術講演梗概集, pp.447-448, (2012)
- 8) 後藤康久, 竹内泰, 他: 京都都心部における地藏の日常的な分布と祭礼時の分布に関する考察: 京都の都市空間と地藏 その2, 学術講演梗概集, pp.723-724, (2010)
- 9) 京都の「地藏」信仰と地藏盆を活かした地域活性化事業実行委員会: 平成 25 年度京都の「地藏」信仰と地藏盆を活かした地域活性化事業報告書, (2014)